

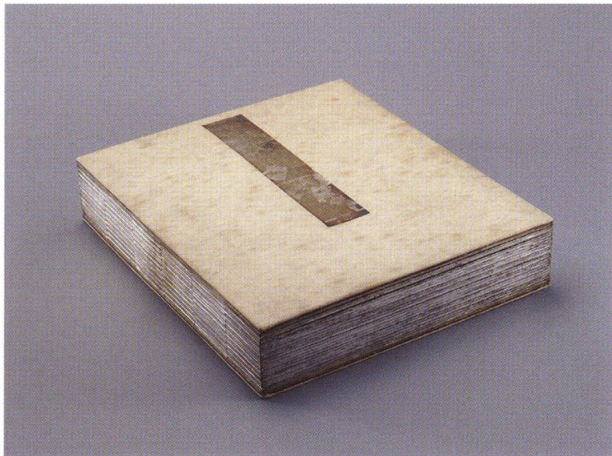
上奏文書 村田直景・関口隆正

5

青年画帖 池田真哉ほか

一帖

明治二十七年（一八九四）  
絹本着色  
本紙各三五・一〇三七・三〇三〇・五〇三六・一



恭惟

日月相映赫照六合外

陰陽耦生融融洽

八尋殿蓬萊境幽長留作樂華香

瀛洲波靜遙浮不二峰影景雲

蔽空鶴掠喬松以舞佳氣滿庭

龜傍層巖而游

詔脩

新盟繼五五之旧契益施

聖德固萬萬之

皇基白雪呈瑞聊表今日

賀儀黃菊放光予期他年

嘉例二見之浦海神

上東海籌高砂之浜老媪

献西山藥平安長春貫四時曾無

改鶴鴿双飛巨万世而不易伏

献此帖謹写丹青之誠幸達

九重不勝屏營之至



2 〈蓬萊〉 邨田丹陵



1 〈日月〉 池田真哉

明治天皇の御結婚二十五年（銀婚式）を記念して、明治二十七年（二八九四）に日本青年絵画協会より献上された画帖。この御慶事に際しては、銀婚式にちなんで数多くの銀製品が献上された。本画帖の装丁も、表紙は白地に題箋形の銀箔が貼られ、本紙が貼り込まれた台紙も総銀地として、銀婚式に相応しい仕立てとなっている。

画帖の冒頭には、同協会の学術委員村田直景、関口隆正による上奏の漢詩文が配されており、この漢詩に詠み込まれた吉祥的な語彙が、各図の画題となっている。日本青年絵画協会は、日本美術協会から独立した若手画家たちの団体であり、本画帖において十九名の画家が各自与えられた吉祥的な画題を独創的な工夫をこらして絵画化している点が大きな特徴である。

漢詩文の「日月相映じ、赫赫と六合の外を照らす」という部分に基づいた池田真哉（二八五八―九五）の〈日月〉は、画面に紅白二枚の色紙形を描き込んだ単純明快な構成である。一面が赤く塗られた右の色紙形には金泥によって斑点状の模様を描かれ、隣り合うもう一枚の色紙形は銀泥によって複雑な模様を描き込まれている。当館紀要第十号（平成十七年三月）で大熊敏之氏が明らかにした通り、実はこの二枚の色紙形に描かれているのは、一つは太陽の黒点であり、もう一つは月面のクレーターを大きく拡大したものである。日本における天体観測の記録図は江戸時代後期にはすでにその例が認められるが、それを美術作品に応用するという大胆な発想は他に類例が見当たらない。またそうした斬新な図様を、平安・鎌倉期からの四季絵屏風や歌仙絵に認められるような色紙形という古典的な形式にあてはめ、一見すると美しい料紙の装飾文様にも見えるように表現したところにも作者の遊び心が感じられる。

邨田丹陵（二八七二―一九〇〇）による〈蓬萊〉は、中国の神仙思想において語られる蓬萊山、東方の彼方の海に位置し、仙人たちが金銀宝石でできた楼閣に住み、不老不死の薬があるという仙境を描いたものであ



6 〈高砂〉尾形月耕



3 〈平安長春〉寺崎廣業

る。漢詩文の「蓬萊境幽（中略）遙かに不二峰の影を浮かぶ」の部分に対応するものだろう。舞い飛ぶ鶴や甲羅に緑毛を生やした蓑亀など長寿の象徴が描かれるとともに、霧の中に見え隠れするように豪華な楼閣がおぼろげに姿を見せる。俗人が近づこうとしても決してたどり着けない幻のような蓬萊山を表現したのか、霧の中に消えゆくような楼閣の描写は見事である。しかし本図の一番の特徴は、その楼閣の背景にさらに高く冠雪の富士が頭をのぞかせている点だろう。「富士」という名称は一説には「不死」からきているとも言い、不老不死の薬を求める始皇帝の命を受けて、蓬萊山に向かった徐福がたどり着いたのが日本の富士だったという伝説もある。こうして蓬萊山は日本においては富士の別称ともなり、しばしばこの二つの山は不老長寿の吉祥イメージが共通するものとして重ねられてきた。こうしたダブルイメージを絵画化しようと試みたのが、この丹陵の図だろう。

また、漢詩文の「高砂之濱、老媪西山の葉を献ず」をもとに尾形月耕（一八五九〜一九二〇）が描いた〈高砂〉も一風変わった吉祥図である。ちなみに「西山の葉」とは不老長寿の仙薬のことである。祝言能『高砂』を題材とする高砂図は、老松とともに熊手を持った尉（翁）と箒を持った姥を描くのが定型であった。しかし月耕が描く図では、尉と姥が二組、さらに二人の童子が描き込まれている。熊手と箒は松の根本に立てられ、一組の尉と姥は旭日に向かって遙拝し、もう一組は盃と銚子を持って童子に微笑みかけている。近世の浮世絵で尉と姥を若い男女の姿で描く見立て絵の例などはあるが、このように二組の老夫婦と童子を描く例は他に見当たらない。遙拝している後ろ姿の尉と姥に比べて、松の根本に座る夫婦はさらに齢を重ねた容貌で描かれている。これと幼い童子を取り合わせて一つの画面に描き込むことで、夫婦の長寿とひいては子孫繁栄を寿ぐ『高砂』本来の意味合いを表そうとしたと考えられる。まさに御結婚二十五年にふさわしい画題と言えよう。



7 〈三大節〉坂巻耕漁



5 〈松鶴〉村上委山



4 〈徳若五万歳〉庄司竹真



10 〈二見浦〉高橋松亭



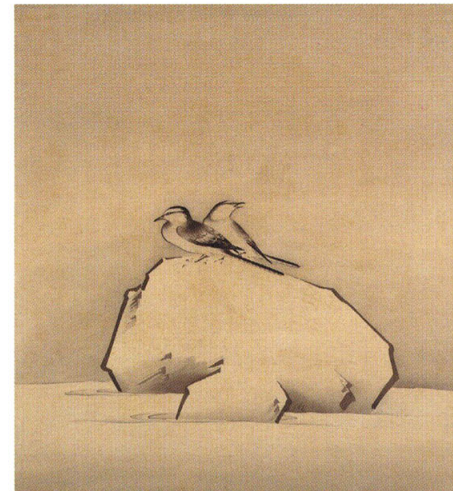
9 〈久米舞〉山田敬中



8 〈黄金白玉〉松野霞城



13 〈竹亀〉角田玉明



12 〈鶴鴿〉岡倉秋水



11 〈養老〉右田年英



16 〈浦島〉水野年方



15 〈静波富岳〉戸田玉秀



14 〈蓬莱遺果〉佐久間棧谷



19 〈天長地久〉島崎柳塙



18 〈蘭陵王〉梶田半古



17 〈鶯花契万春〉福井江亭

二見浦	久米舞	黄金白玉	三天箭	高砂	松鶴	魂若五藤崎	平安長春	蓬萊	日月
高橋裕亭	山田敬中	松堅霞城	坂巻耕漁	尾形月耕	村上季山	庄司竹真	寺崎廣業	池田丹陵	池田真次
	天長地久	蘭陵王	鶯華翠鳳春	浦嶋	静波富岳	蓬萊遺果	竹窟	鶴鶴	養老
以上	嶋崎柳塙	梶田半古	福井江亭	水堅丰方	戸田玉秀	佐久間棧谷	角田玉明	岡倉林水	右田丰英

画題・作者一覧

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shozokan